

ZERO DISCRIMINATION DAY MESSAGE 2021

2021年差別ゼロデーにおける 国連合同エイズ計画 (UNAIDS) 事務局長メッセージ

今年の差別ゼロデーはとりわけ深く心に刺さります。

ウイルスは差別しない。最初はそう言われていました。しかし、私たちがいま、改めて目撃しているように、危機のさなかにおいて社会は差別します。

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 が社会の亀裂を広げています。社会から疎外され、すでにぎりぎりの状態に追い込まれていたコミュニティこそが、経済的に最も大きな打撃を受け、不可欠なサービスを受けられずに列の後ろで立ち往生することを強いられ、危機の犠牲になっているのです。

一方で、今回の危機においても再び、最も排除されたコミュニティこそが、自らの経験から得た専門的な知識と共感、そしてすべての人が健康と回復を得ることが可能だという主張に基づき、真っ先に支援に立ち上がってきました。

UNAIDS は世界中のコミュニティとともに平等を求めます。ジェンダーや収入、人種、障害、性的指向、民族性、宗教などに基づくすべての不平等に対し、断固としてノーと言います。そうした不平等は社会を傷つけ、正義と尊厳を損なうものなのです。

差別とスティグマと犯罪化に終止符を打つことを要求します。

すべての組織、および影響力のあるすべての人たちには、差別をしないというだけでなく、差別と闘うことを求めます。

差別は人を殺します。緊急事態をさらに悪化させ、パンデミックを永続させてしまうのです。

世界が 2030 年のエイズ終結に向けた軌道を外れているのは、知識や能力、手段に欠けているからではありません。構造的な不平等に妨げられているからです。たとえば、調査の結果によると、性的指向について懲罰的な法律がある社会では、ゲイ男性など男性とセックスをする男性が HIV に感染するリスクは 2 倍になります。そのような法律を撤廃することが HIV

パンデミックに打ち勝つための中心的な課題なのです。

同じように、移民層をはじめ、排除とスティグマの対象とされやすい集団に対する差別が、COVID-19の検査、治療、支援へのアクセスを妨げています。そして、このことがすべての人を傷つける結果を招いてもいます。

それぞれの国を脅かしている差別は、国際的な脅威でもあります。COVID-19のワクチンが利用できるようになりました。しかし、そのことでいま、深刻な不公平が生じています。すべてのCOVID-19ワクチンの75%以上が、わずか10カ国の人たちの接種に向けられている一方で、初回接種すらまったく受けていない国が130か国以上もあるのです。南アフリカではこの状態をワクチンアパルトヘイトと呼んでいます。国連事務総長が語っているように「ワクチンの公平性は究極的には人権にかかわる問題」であり、「ワクチン・ナショナリズムがそれを否定している」という状態です。世界中で、そしてすべての国で、私たちはすべての人が等しく貴重であることを認めなければなりません。

不平等に終止符を打つことは、すべての人権を前進させ、社会がCOVID-19に打ち勝ち、将来のパンデミックに備え、経済の回復と安定を支えることになります。

私たちは、公的な保健医療によって、お金の心配をすることなく、誰もが健康の権利を確保できるようにしなければなりません。予約や資格審査などをせず、すべての人に敬意を持って提供できるようにしなければならないのです。

誰もが、どこであれ、差別を見つけたら率先して声をあげ、動く必要があります。

より健康で、安全で、平等で、繁栄した世界の実現はそこにかかっています。

差別に直面するコミュニティのリーダーシップに私は大いに触発されています。その決意、勇気、そしてビジョンは私たちにとってお手本です。国連はともに平等を実現する同志としてそこにいます。

不平等に終止符を打ちましょう。差別ゼロを求めましょう。

ウィニー・ビヤニマ、UNAIDS 事務局長